

予算特別委員会（6/11～6/12）

修正案提出

6/11 と 6/12 と、6 月補正予算に伴う予算特別委員会が開催され、6/12 は総括質疑が行われました。下記はその内容です。

私は、行財政改革についてや、市職員給与の質疑を行わなければならない状態から早く卒業し、来年の市制 60 周年を皆でお祝いしたいという旨を前置きとして申し上げ、代表質問でも質疑をさせていただいた、「市職員の給与のあり方に関する懇話会」349 千円と、「政策アドバイザー報酬」1,498 千円、「政策アドバイザー費用弁償（旅費）」2,207 千円について取り上げました。

先日の代表質問の答弁から、「市職員の給与のあり方に関する懇話会は、8 月に市民公募し、学識経験者を交え、9 月から 12 月に懇話会を 4 回開催し、そしてその結果をふまえ職員組合と交渉し、その交渉を受けて、しかるべき時期に市議会に提案する」との事に対して、市長がリーダーシップを取って、早急に解決すべき問題であることを再度述べさせていただきました。

市長選直後の新聞社へのインタビューでは時間をかけず 9 月に結論を出すとしていましたが、結局は本年度は、職員給与削減をしないという、市長からの答弁でした。

2 年連続施政方針で、職員給与を聖域としないと述べられているのですが、2 年連続聖域となったことを改めて市長は宣言しました。

政策アドバイザーについては、先日の代表質問時の私の質問には、まだ何も決まっていけないという事で、明確な答弁はなされませんでした。今回の予算特別委員会では、市長から、政策アドバイザーとして、元広島市長の秋葉忠利氏・元我孫子市長の福嶋治彦氏という具体的な名前も挙がりました。

両名とも、高名な市長経験者ですが、ある一定のイデオロギーをお持ちになる方とされますので、広く多くの市民の賛同を得難いこと、今回の補正予算で文化芸術振興会議、産業活力創造会議、協働のまちづくり促進委員会を始め、多くの会議が新規に開催され、いずれも専門学識経験者や公募市民が選ばれる計画がなされている中で、屋上屋を架する懸念があることについて言及し、一度立ち止まってもらえるようお願い致しましたが、計画通り進めたい旨の答弁でした。

新風宝塚改革の会としては、この動きに対抗しようと、「市職員の給与のあり方に関する懇話会」・「政策アドバイザー」について、付けられた予算を予備費に振り替える修正案を提出すべく、準備を進めて参りましたが、「市職員の給与のあり方に関する懇話会」については、なかなか他の会派の賛同を得る事が難しいと判断し、断腸の思いで「政策アドバイザー報酬」1,498 千円、「政策アドバイザー費用弁償（旅費）」2,207 千円のみを予備費に振り替える修正案を提出しました。

しかし、11 名の予算特別委員（委員長を除く）のうち、残念ながら修正案に賛成は 4 票、原案修正案共に反対が 1 票という結果になり、結局原案が可決されました。

7/3 の本会議最終日においても再度、会派としてこの修正案を他会派の議員にも協力を得て、提出いたしましたが、残念ながら賛成少数で否決されました。

産業建設常任委員会現地視察（6/10）

月見ガ丘配水池の水道貯水槽侵入事件

月見ガ丘配水池の水道貯水槽へ何者かが忍び込んだ事件について、6/10 産業建設常任委員会として現地視察に入りました。

平井山荘の一番高いところにある貯水池の金属フェンスを切って侵入した上に、錠前を切断して蓋を開けるといふ、荒っぽい手口に驚きました。アメリカのテロの 9.11 当時ならもっと大変な騒ぎになっていたと思います。

市内には、同様の貯水池がたくさんあり、今後の対策が急がれます。産業建設常任委員会としても、所管の事件としてしっかり対策が取れるように努力して参ります。